

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 9 月 16 日

【評価実施概要】

事業所番号	4075800310		
法人名	社会福祉法人 内野会		
事業所名	グループホーム 鴨生の里		
所在地	福岡県嘉麻市鴨生693-1 〒820-0206 (電話) 0948-42-2790		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年9月15日	評価確定日	平成21年10月13日

【情報提供票より】(平成 21 年 8 月 21 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人	非常勤 3 人 常勤換算 5.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り		
	1 階建ての～	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費	円
敷金	有(100,000 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,000 円程度	

(4) 利用者の概要(8 月 21 日現在)

登録人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護 1	1 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 88.7 歳	最低	85 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・金丸医院	・ひらの歯科医院
---------	-------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に介護老人施設等をもつ法人が、2件目のグループホームとして5年前に開設した。開設以来の取組みとして、法人全体での地域交流や自立支援がある。何事においても無理強いすることなく、見守りながら、適切な支援がなされた結果が功を奏し、各利用者の自立度は高い。平均年齢は米寿を超えるが、家事や趣味活動等に精力的に取り組んでいる。ドライブ等が好きで、いつでも外出できるようにと自発的に整容し、昼食時にはキッチンに立つ。その様子からは「意思」というより「意欲」が感じられた。職員もその「意欲」に応え、少人数ながらの細やかで丁寧な支援を行っている。同時に、利用者がお元気な分、転倒には最大の注意を払い予防に努めている。自分で食べ、歩き、笑い、無事に過ごす。日本の平均寿命を超えた利用者によるこの生活を今後も継続してもらうための支援と充実が期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について、運営推進会議時や勉強会時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程において、非常災害対策やリスクマネジメントへの取組み等の成果が見られた。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価実施にあたり、評価の意義や目標等について考察し、事業所全体の状況を再認識し、改善につなげる機会として活用している。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 介護保険課職員、ふれあい介護相談員、利用者家族等を招いて2ヶ月毎に開催している。会議の内容は、ホームの概要や活動報告、利用者の状況、ヒヤリハットや事故対応、外部評価の結果や現在の取組み内容の報告、行事や公民館活動等の情報提供やホームイベントに向けての計画等が協議されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 運営推進会議時や家族交流会、家族の面会時などを利用して、意見や思いの表出に努めている。その際、職員と家族とのかわりを通じて、意見や苦情を表出しやすい雰囲気づくりへ配慮している。意見や苦情については、内容に応じて、その場での回答や職員会議で検討した後に回答するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 校区の「いきいきサロン」(現在はサロン自体が休止中)に参加し、地域高齢者との交流の機会を確保している。ホームでも、家族の紹介でプロ歌手がボランティアとして訪問し、地域住民を招いて歌謡ショー等を開催している。また、近接する施設と合同で中学生の職場体験や保育園の訪問の受け入れ、敬老会、夏祭りを開催する等、法人全体で地域交流に取り組んでいる。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念に加えて、4年前に職員全体で話し 合い理念の再検討を行った。より地域とのかかわりに 重きをおき、「住み慣れた地域との寄り添い、人と人との 心の寄り添いを大切に生きがいとやすらぎのある 生活を支援します」を理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の目の付く場所に掲示している。朝礼時や カンファレンス時に理念を唱和し、地域とのかかわり も意識しながら、日々の実践に努めている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	校区の「いきいきサロン」(現在は休止中)に参加し、 地域高齢者との交流の機会を確保している。ホームで も、家族の紹介でプロ歌手がボランティアとして訪問し、 地域住民を招いて歌謡ショー等を開催している。また、 近接する施設と合同で中学生の職場体験や保育園の 訪問の受入れ、敬老会、夏祭りを開催する等、 法人全体で地域交流に取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議時や勉強 会時に改善についての協議を行うなど、質の向上への 取組みがある。この過程において、非常災害対策 や、リスクマネジメントへの取組み等の成果が見られた。今 回の自己評価実施にあたり、評価の意義や目標等 について考察し、事業所全体の状況を再認識し、改善 につなげる機会として活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いての2ヶ月毎の開催がある。会議の内容は、ホームの概要や活動報告、利用者の状況、ヒヤリハットや事故対応、外部評価の結果や現在の取り組み内容の報告、行事や公民館活動等の情報提供やホームイベントに向けての計画等を、協議している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎回、運営推進会議への行政からの参加があり、役所に赴く際も利用者と同行し、行き来するようにしている。定期的に市の社会福祉協議会主催の福祉施設等連絡協議会に出席し、行政及び地域の施設事業所とも連携する機会を確保している。また、毎月ふれあい相談員を招き、意見を交わしながら、サービスの質の向上に努めている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、外部研修に参加し、制度の概要への理解を深めるように努めている。利用者・家族へは、契約時に予め概要について説明している。		今後、家庭環境も含めて高齢者をとりまく状況は変化し、権利や財産を守る制度の必要性は益々高まるものと予想されます。利用者及び家族、地域住民や職員にとっても有益な制度周知の機会として、運営推進会議や家族会等を活用される取り組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払い窓口を設けていることもあり、毎月1回は家族が訪問している。その際に、金銭管理簿や必要に応じて介護記録を提示しながら、心身の状況や健康状態、暮らしぶり等の説明を行っている。受診後、電話で連絡し、毎月のホーム便りにて、ホーム行事等の案内や報告を行うなどの取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や家族交流会、家族の面会時などを利用して、意見や思いの表出に努めている。その際、職員と家族とのかかわりを通じて、意見や苦情を表出しやすい雰囲気づくりに配慮している。意見や苦情については、内容に応じて、その場での回答や職員会議で検討した後に回答するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動を必要最低限にとどめるように配慮している。やむなく離職者が出た場合は、利用者のダメージを最小限度に抑えるために、継続している職員で不安を軽減できる様に、意識して支援に努めている。離職や異動した後も、元職員がホームに遊びに来られる雰囲気をつくるなど、できる限り馴染みの関係が絶たれる事がない様に配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別・資格・経験の有無等の制限は設けていない。募集の際は、理念への共感や、夜勤も含めて時間的、体力的に可能か否かを考慮し、常勤、非常勤の勤務体制等について説明している。法人全体で、資格取得を奨励し、職員に対して勤務調整を行うなどの配慮がある。また、日常の場面においても、書道や料理、インテリアなど、職員それぞれの長所が活かされ、なおかつ統一感があり、ホームへの愛着や自己実現しやすい環境とチームワークの良さが感じられた。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に行政主催の人権学習会に参加している。加えて、事業所内でも受講報告会を開催するなど、高齢者や福祉に限らず、幅広いテーマでの人権教育や啓発活動に取り組んでいる。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修について掲示や回覧、会議時での情報提供を行い、職員の参加を募ったり、管理者が適切に割り振るなど、外部研修への均等な参加の機会を確保している。また、外部研修受講後は受講報告を行い、新しい知識や情報を共有する取組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内に別のグループホームがあり、意見や情報を交換する機会を確保している。対外的には、定期的に、市の社会福祉協議会主催の福祉施設連絡会に出席し、他の事業所の状況や事例発表等を聴く機会を確保している。		職員の皆様が「普通」と考える支援の中には、少数ならではの、細やかで丁寧な対応が多々見受けられました。貴事業所の長所や短所について再認識し、情報交換等を行う為にも、他事業所の見学や職員との交流の機会を確保し、職員一人ひとりのモチベーションを高め、更なるサービスの質の向上に活かされていく事を期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り、利用者本人と家族の見学を勧めている。不可能な場合は、管理者が面談に赴き、徐々に馴染めるように配慮している。入居後は、利用者とのかわりを多く持ち、精神的な安定が得られる様に支援している。他の利用者との関係も、配席等も含めて、それぞれの個性を尊重し、ゆっくりと自然に馴染んでいけるように見守りながら支援している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、家事のアドバイスを受けたり、昔話を通じての人生経験等から学ぶ姿勢がある。職員も利用者も日々の会話を楽しみながら、ねぎらいの言葉をかけ合うなど、相互の存在を支えあう関係を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時に利用者、家族、関係者から話を聞き、基本情報として記録している。入居後は日々のかかわりを通して、利用者の言葉や表情など、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、カンファレンス時に職員全員で意見を出し合い、記録している。同様に家族から提供された情報等についても記録し、情報の共有化に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者毎の担当職員と計画作成担当者が、本人の希望や家族の意向等をまとめ、ケアカンファレンスにて職員全体で協議し、利用者本位の介護計画を作成している。必要に応じて法人内の作業療法士や理学療法士、栄養士等も参加し、課題の分析やリスクの回避、同時に利用者の生きがいや楽しみを支援することを目標とした介護計画書を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のモニタリングと、3ヵ月毎・6ヵ月毎の評価見直 しを実施している。全利用者の状況について、日々の 申し送りや隔月のミーティング時に意見交換や協議を 行い、支援手順の見直しや確認、情報や支援方針の 共有を行っている。また、心身状況等の変化時におい ても、同等の過程を経て評価、見直しを行い、より現 状に即した計画作成への取組みがある。		現在、隔月のミーティングや申し送り時に利用者の 情報交換や支援内容の確認がなされています。この 機会の確保が全利用者について均等かつ定期的 (1ヶ月に1回以上)になされている事と、情報や確認 された内容について記録されることは、利用者・家族 及び貴事業所にとって貴重かつ有益な資料となると 思われます。今後の取組みを期待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	定期的な病院受診には原則的に、職員が同行し、 各医療機関と連携を取っている。また、毎週金曜日 は、隣接する同法人のデイサービスを訪問し、昼食を とむる事で、利用者同士の交流を深める機会を確 保するなど、法人全体で協力しながら、可能な限り柔 軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に、利用者・家族が主治医を選択している。 協力病院による毎週の往診のほか、定期受診の際に は職員が同行し、利用者の心身の状況等について主 治医に報告し、説明を受け、家族やホーム職員に伝達 し、対応を相談するなど情報の共有に取り組んでい る。従来のかかりつけ医を受診する場合にも同等の 支援を行っている。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化についての事業所の方針と、医療 との連携体制について説明し、利用者家族から、同 意を得ている。開設以来、看取りの事例はないが、利 用者の心身の状況に応じて、主治医を含めた関係者 で話し合いの機会を確保し、その都度の利用者・家族 の気持ちの確認と、情報・方針を共有しながら支援出 来る様に準備している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応についての勉強会やその都度の指 導を実施している。守秘義務の周知指導を徹底し、個 人情報に関する記録物等は、事務所やスタッフルー ムにて適切に管理されている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	開設以来、利用者のペースに合わせた支援が継続 されている。食事を中心に、大まかな一日のスケ ジュールはあるが、その時その時の本人の気持ちを 尊重し、利用者の意欲や自発的な行動を支援してい る。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	食材の買出し、準備や後片付けなど、利用者の能 力に応じて協力をお願いしている。食材購入の段階 で、栄養価等を考慮し、法人の栄養士の助言や、利 用者の好みを聞きながら、その日冷蔵庫にあるもの で調理している。当日は、具沢山の根菜だご汁と鮭の 照り焼き、サラダ、酢の物など、多品目で見た目も美 しく、味や食感もバラエティに富んだ内容であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	原則的に隔日で、午後から入浴出来る様に準備し、 順番や時間、湯温等は利用者の希望にあわせて対 応している。自力入浴が可能な利用者もあり、介助の 程度についても利用者毎に過不足なく支援している。 あまり入浴を好まれない方にも、タイミングを見計らっ ての声掛けやシャワー浴、清拭等を行い、定期的な清潔保 持の機会を確保している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	書道や壁面作品の作成、アクティビティ等の趣味活 動、外食やドライブ等の外出、食事の準備や洗濯物 たたみ等に参加していただき、利用者の張り合いや 喜びを見出し、支援していく取り組みがある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	花見や行楽など毎月の行事外出の他にも、日々の 散歩、買い物、その都度の要望に応じて戸外へ出か けられるように支援している。また、買物や所用で職 員が外出する際は、利用者にも一声をかけて、可能 な限り同行していただけるように支援している。外出 は、殆ど毎日実施されており、いつでも外出できる様 にと、利用者自ら整容を習慣とされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されており、自由に入出りできる。 事業所は県道に面しており、交通量の多い場所であ るが、職員は利用者の様子をきめ細かく観察し見守り を行っている。さりげない声かけや同行等、利用者の 自由と安全のバランスを保ちながら支援している。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消防署もしくは防災設備業者の指導のもと、利用者 家族等も招いて、定期的に避難・消火訓練を実施して いる。本年度は、防火管理者を設置し、近接する老健 と連携をとり、法人全体で利用者の安全を守る取組 みがある。7月の大雨の際には、同老健に近隣住民 が非難する等の事例も見られ、地域との連携につい ても法人全体で取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	必要に応じて法人の栄養士のアドバイス等を受けな がら、栄養価やバランスを考慮し、利用者の好みや食 習慣にも対応しながら献立を作成し食事提供をしてい る。定期的な体重測定、毎回の食事摂取量の記録を 行い、水分摂取については必要に応じての観察や補 給を促すなどの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	広い玄関、高い天井など、のびのびとした空間と なっている。自然採光と、暖色系の照明、ウッド材と和 風モダンをとりいれ、温かみのある空間となっている。 加えて職員や利用者の書道作品や和の小物がセンス 良く飾られ、統一感がある。畳スペースも広く、ゆっくりく つろげるリビングであった。また、歩行器や車いすでも使 用しやすいような動線が十分確保されていた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッドとクローゼット、洗面台、トイレが設備し てあり、個室性は高い。寝具、TV、タンス、椅子等の家 具や雑貨は、利用者、家族が相談し持参している。季 節ごとの洋服の入れ替えや模様替え、毎日の清掃等 についても利用者と職員が協力しながら行っている。 またセンサーマットや鈴をつけて、利用者の居室内の様子 が把握できるよう安全面からの工夫も伺えた。		

■ は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号